近況レポート

夢洲「世界から」と「未来へ」と…

文・写真　加賀 まゆみ（夢洲生きもの調査グループ）

4月、夢洲では無事万博が開幕。しかしメタンガスに続き、ユスリカ大量発生やレジオネラ菌など夢洲という立地だからこそ発生した問題が次々と噴出。当グループの過去発言やHPが注目され、取材が集中した5月だった。3月中に完成していたRSPB（英国王立鳥類保護協会）からの大阪湾岸への提言は、5月末英国総領事から大阪府知事・大阪市長へと送られた。だがマスメディアは「日本の姿勢が問われている」というこの書簡の重要性が認識できないようで、在阪メディアを動かす難しさを私たちは再実感した。この件は進行中のため、報告はまた後日。

5月中旬、今年も「みんなで守ろう！海わたる鳥」展が天王寺動物園のZoo Museumで8日間開催された。第2回目の今年は大阪湾岸で自然再興可能地の紹介とそこで見られる野鳥写真を中心に展示。展示は共同宣言の説明などもあり、去年ほど華やかな雰囲気でなかったことや、今年は万博のためか来園者自体かなり少ない印象だったため、急遽会場で手作りおもちゃのワークショップをすることにした。これは、創立40周年ポスターコンクール「未来に残したい大阪の自然」で大賞を受賞した岡田三朗さんが制作している手作りキットを使うもの。岡田さんは協会の古くからの会員で、90歳を超えた今でも、子どもたちが手をつかって遊ぶことを願って、ボール紙の工作セットを作り、観察会などに提供してくださっている。今回ほんとに急にもかかわらず快く300セットを提供くださって、7日間でほぼ9割を利用させてもらった。

このワークショップ効果は絶大で、作品で遊びながら園内を回る子どもたちが宣伝してくれることになり、それからは会場に訪れる家族も増えた。また校外学習中の高校生たちも結構たくさん来てくれ、童心に帰って夢中で遊んだあと、しっかり渡り鳥や生物多様性の話を聞いてくれたり、保全協会の冊子を持ち帰ったりしてくれた。楽しく交流してくれた会場スタッフたちに感謝するとともに、このような機会が未来の種まきとなることを実感。形を変えても長く続けたいイベントだと思う。

次世代とのかかわりということを言えば、その後、別の高校の生徒からの「埋立地の自然環境と行政のかかわり」について自由研究したいので現状を教えてほしい、という問い合わせにも応じた。

また、前回の報告でちょっとご紹介した万博会場のトイレ「夢洲の庭」をデザインした若手建築家GROUPから、「GQ CREATIVITY AWARDS 2025」で受賞し、その受賞イベントで夢洲の自然をもとにした映像を流す、と連絡があり、銀座まで見に行ってきた。説明のない映像だったが、私たちの動画記録をふんだんに使っている映像だった。受賞5組のアーチストの中にはMrs Green Appleもいて、内覧会にきているマスメディアのほとんどはアート&ファッション系雑誌だったので、「夢洲」を認識していただけたかは「？」だが、この映像はもう少し手を入れて7月末から10月まで乃木坂のTOTOギャラリーで上映するそうだ。今私たちは次世代や意外な方面にいろいろな関わりが広がりつつある。それはなによりうれしい希望だ。

写真-1 高校生に頼まれて撮った写真。冊子に乗せてもいい？と聞いたら、喜んでくれた。（2025.5.16 天王寺動物園、Zoo Museum）

写真-2 夢洲の映像の前に集まる若手建築家「GROUP」の皆さん。（2025.7.4 Ginza Sony Parkの内覧会）